

令和5年度農作物有害動植物発生予察情報 特殊報第1号

令和5年9月27日
山形県病害虫防除所

- 1 病害虫名 トマトキバガ (チョウ目キバガ科) *Tuta absoluta* (Meyrick)
- 2 発生の経緯
 - (1) 令和5年4月から県内2地点にトマトキバガのフェロモントラップ (以下PT) を設置し、調査した結果、令和5年8月4日にトマト栽培圃場周辺に設置したPT (1地点) に本種と思われる蛾の成虫が誘殺された。
 - (2) 誘殺された蛾の成虫 (写真1) を農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、トマトキバガの雄であると同定された。
 - (3) 現在のところ、県内では本種による農作物の被害は確認されていない。
 - (4) 本種は、国内では令和3年10月に熊本県のトマト圃場で初めて確認された。その後、東北5県を含む計24道県で特殊報が発表されている (令和5年9月26日現在)。
- 3 形態
 - (1) 成虫 (写真2) は、翅を閉じた静止時で体長5~7mm (前翅長約5mm、開張約10mm)。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一様に淡黒褐色である。
 - (2) 幼虫 (写真3) は、終齢で約8mm。体色は淡緑色~淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。
- 4 生態と被害
 - (1) 1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、年に10~12世代発生する地域もある。卵~成虫になるまでの期間は24~38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。
 - (2) 成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多く、雌は一生のうち平均約260個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。幼虫は1齢から4齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。
 - (3) トマト、なす、ピーマン、ばれいしょ等のナス科植物が主要な寄主植物である。マメ科のいんげんまめも、寄主植物として確認されている。トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白~褐変した外観となる (写真4)。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実品質が著しく低下する (写真5)。
- 5 防除対策
 - (1) 圃場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
 - (2) トマトキバガの発生が疑われる場合は、病害虫防除所または最寄りの農業技術普及課に連絡する。
 - (3) 発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実は圃場に放置せず、速やかに土中に深く埋没するか、ビニル袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。
 - (4) 現在、トマト、ミニトマトではトマトキバガに対する適用農薬がある。また、薬剤散布に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統が異なる薬剤のローテーション散布を行う (農林水産省「農薬登録情報提供システム」<https://pesticide.maff.go.jp/>)。



写真1 本県で誘殺された成虫



写真2 トマトキバガ成虫



写真3 トマトキバガ幼虫



写真4 トマト葉の食害痕
(飼育個体)



写真5 トマト果実の食害痕
(飼育個体)

写真1 は山形県病害虫防除所 原図

写真2～5 は農林水産省横浜植物防疫所 原図

山形県病害虫防除所	本 所	TEL 023-644-4241	FAX 023-644-4746
	庄内支所	TEL 0235-78-3115	FAX 0235-64-2382
山形県病害虫防除所トップページ	https://agr.in.jp/theme/byogai-chubojosho/index.html		
農作物有害動植物発生予察情報	https://agr.in.jp/theme/safe_products/yosatsu/index.html		